

## と畜場に搬入された豚における E 型肝炎ウイルス遺伝子保有状況について

森松 清美、岩崎 靖

愛媛県食肉衛検

1.はじめに：E型肝炎は、E型肝炎ウイルス(HEV)が経口感染することによって起こる急性肝炎である。近年、人では加熱不十分な豚の肝臓などの喫食により感染したと疑われる事例が報告されている。一方、動物においては、肥育豚からの HEV 遺伝子の検出が多く報告され、HEV が広く浸潤していることが推測される。愛媛県内では、肥育豚の HEV ウイルスの保有状況は今まで調査されていないことから、今回 HEV 感染の実態を把握するため、遺伝子の検出ならびにその塩基配列について解析を実施し、更に同一農場での発育状態別に HEV 保有状況を比較したので報告する。

2.材料及び方法：2011年2月から2011年5月にと畜場に搬入された18農場、豚631頭(各農場12~50頭ずつ)の胆汁を採取し材料とした。スクリーニングとして、農場ごとに約5頭分を1検体としてHEV遺伝子の検出を行い、遺伝子が検出された検体については、個体ごとに再検査を行った。ウイルス遺伝子の抽出には、QIAamp Viral RNA Mini Kit(QIAGEN)を用い、遺伝子の検出は、国立感染症研究所の武田らによるE型肝炎検査マニュアルに準じて実施した。584または378bpのバンドを認めた検体は、遺伝子配列を決定し、系統樹解析を行った。

3.結果：HEV遺伝子は、18農場中2農場(11.1%)、豚631頭中3頭(0.47%)から検出された。発育状態別では、HEV遺伝子は、発育不良豚233頭中3頭(1.28%)、正常豚398頭中0頭(0%)であった。遺伝子が検出された2農場の豚は、全て発育不良豚であり、正常豚からHEV遺伝子は検出されなかった。今回、検出された3検体の遺伝子型はHEV型に分類され、そのうち、2検体は同一農場で検出され非常に近縁であった。また、これらは、Nishizawaらがイノシシから検出したwbJSG1[AB222182]と91~92%の相同性を示した。

4.考察：豚631頭中3頭(0.47%)からHEVの保有が初めて確認され、HEV遺伝子は、他県の事例と同様に正常豚よりも発育不良豚において検出率が高かった。また、今回、発育不良豚にのみ検出されたことから、HEV汚染農場の発育不良豚のと畜検査時には、特定された農場の情報を検査員が共有し汚染を防止するとともに、保健所などと協力し豚レバーなどの適切な取扱いについて消費者に注意を喚起する必要があると考える。